



道二先生道話

西垣文庫  
文庫10  
6684



文庫10  
6684

道正先生御高札道話



平野橋翁 授

御高札の写

西垣文庫

一 親子兄弟夫婦と姉。諸親類不親く。小人等にのみまて。是と憐む  
 魚一。主人ある家。各其まことに精と出たへまらる。

一 家業と身不し。悔まことあく。弟輩其分限おさへくまらる。

一 偽とか。又いふ理といひ。想る人の言ふて。成るまじかまらる。

一 博奕の類一切極制のり。

一 和歌外是と思ふ。

道話

是皆懐存念の天下院の所高札。まは成りくのもはつらと念海  
 まはと大海ちびも下院への所上かゝ作出来たりたると成を此  
 相寄る福あはれを又は所高札の毎りにてはまは成り外不教と  
 入らぬ。神徳佛は所高札の中に籠る居るは所高札の表は只  
 家内中一が親教を指とて天下中相念いし中よりくはは  
 させぬものなり。相念いしはと慈の上でも安樂く福の事あるは  
 相念いしは相念いと知ん。唯今日と大の事之暮せばいやでもあう  
 ても。そのおが子孫長久しはふあはひもあはひとく相念いしは一切  
 弟物も毛比相念かゝ相念も上天子より下庶人よもまは成。只  
 道相念はう。是今日相念いしは相念いしはひめ家内もせは。雨露  
 あり濡は。安樂に今日と即て居るはまは成。この外もあはひも  
 会するもあはひの。比外と形の外皆人歎。あはひは文殿樓閣も住ん  
 居ても。是れと知は。うかして居るはまは成。比は相念いしは  
 中せん。ハウスウ。不足のつて若む時ハ地獄くは。あのみ殿樓閣  
 ハ棟造りも。何のあはひの。只風と志のくばりのあ。業を  
 ても同じと。この相念いしは相念いしは相念いしは相念いしは  
 よる附ハ。一尊志。我くが寝るも。一尊志。何もかをうはあは  
 何不百萬石の法殿掃でも。以掃とめ。よるは二杯。三杯。

道相念はう。是今日相念いしは相念いしはひめ家内もせは。雨露  
 あり濡は。安樂に今日と即て居るはまは成。この外もあはひも  
 会するもあはひの。比外と形の外皆人歎。あはひは文殿樓閣も住ん  
 居ても。是れと知は。うかして居るはまは成。比は相念いしは  
 中せん。ハウスウ。不足のつて若む時ハ地獄くは。あのみ殿樓閣  
 ハ棟造りも。何のあはひの。只風と志のくばりのあ。業を  
 ても同じと。この相念いしは相念いしは相念いしは相念いしは  
 よる附ハ。一尊志。我くが寝るも。一尊志。何もかをうはあは  
 何不百萬石の法殿掃でも。以掃とめ。よるは二杯。三杯。



ゆづりて木下蔭と福とをば花やと春のこころあきしん

このふ懸の活弁も何うまに又去塔文様を遊戯のこころ三日し

四日も遊戯と何うよぬとあつて舞の舞止ひりひ目我か

されし時作らうと我も下と流れんとあ然も何もあふとぞ汁掛

飯一杯喰ふと作らうとこのふとをせと名和伯耆守長年と

いふ大急がまきく楠正成の吐さぬあ六揃く大塔文様ともしえれる

此方さうと六界あふと我作らうそのいせでい形を成徳いあ

さうねらうと市たら楠多きえいやくとふてあはれ月をかあとい

まご登飯のかその目ありあをせぬ方志やうそふあめいせはう

天子様でもま様でも同じ人間後がよるればこそまごの望も好

もあつらう一日くらすお存ら中々の外のこと考へておらるるのけ

でいこまうらぬば心藏あといた振か目おなぐ出あふえ存て存

ゆゑ光平あふとあまほといえれたと市とあんとその時あふ

生れあをたたらごんかとい今う振か春平の所代おせれ念せついで

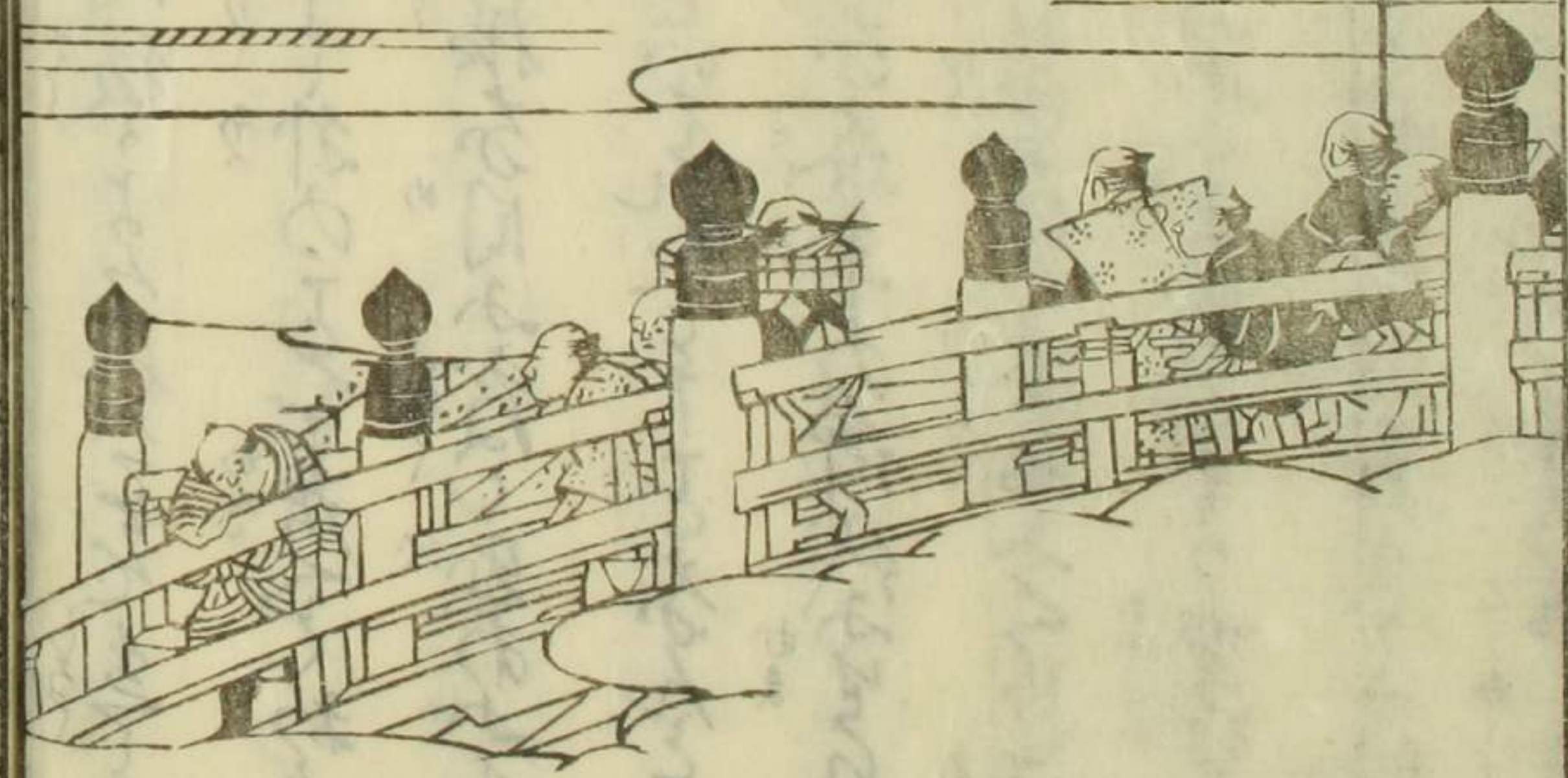
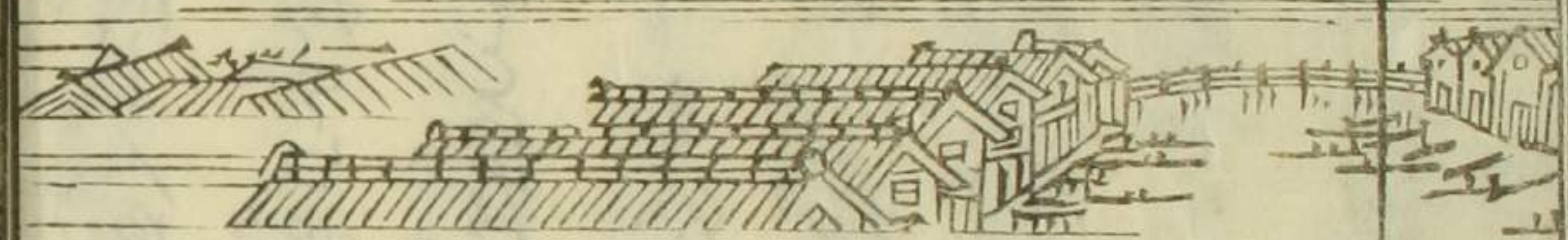
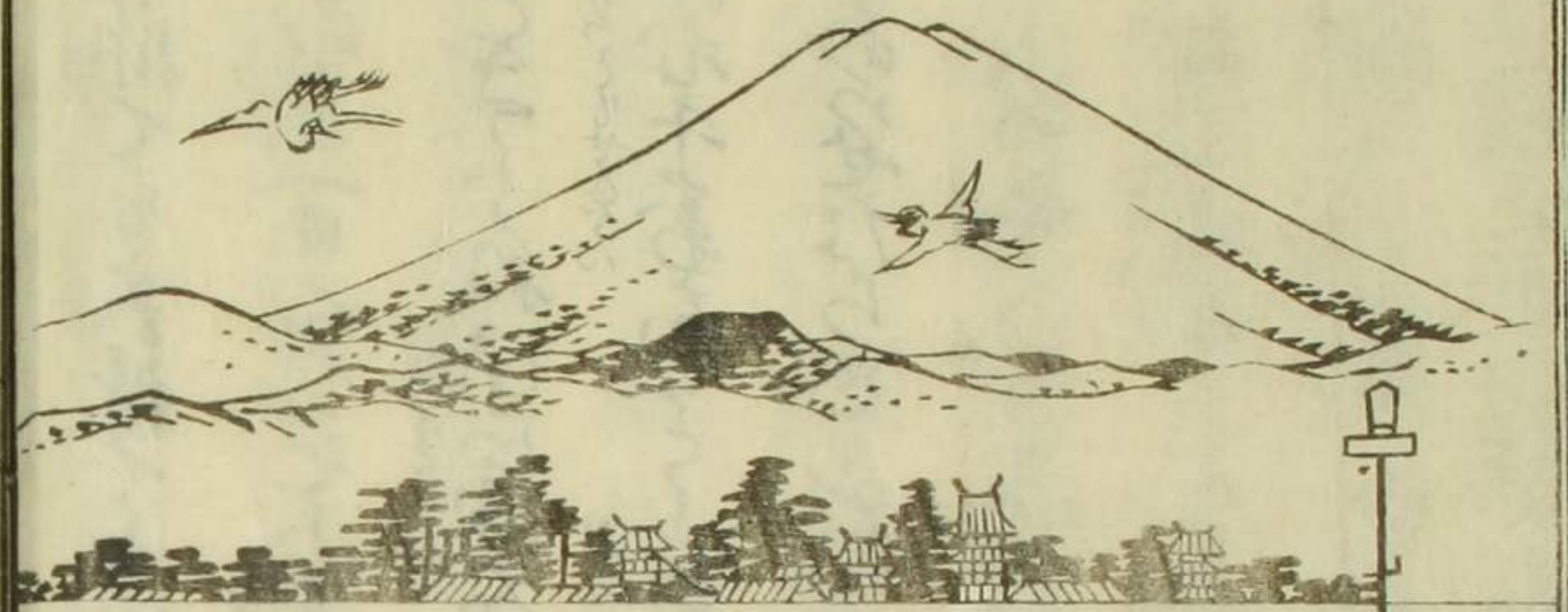
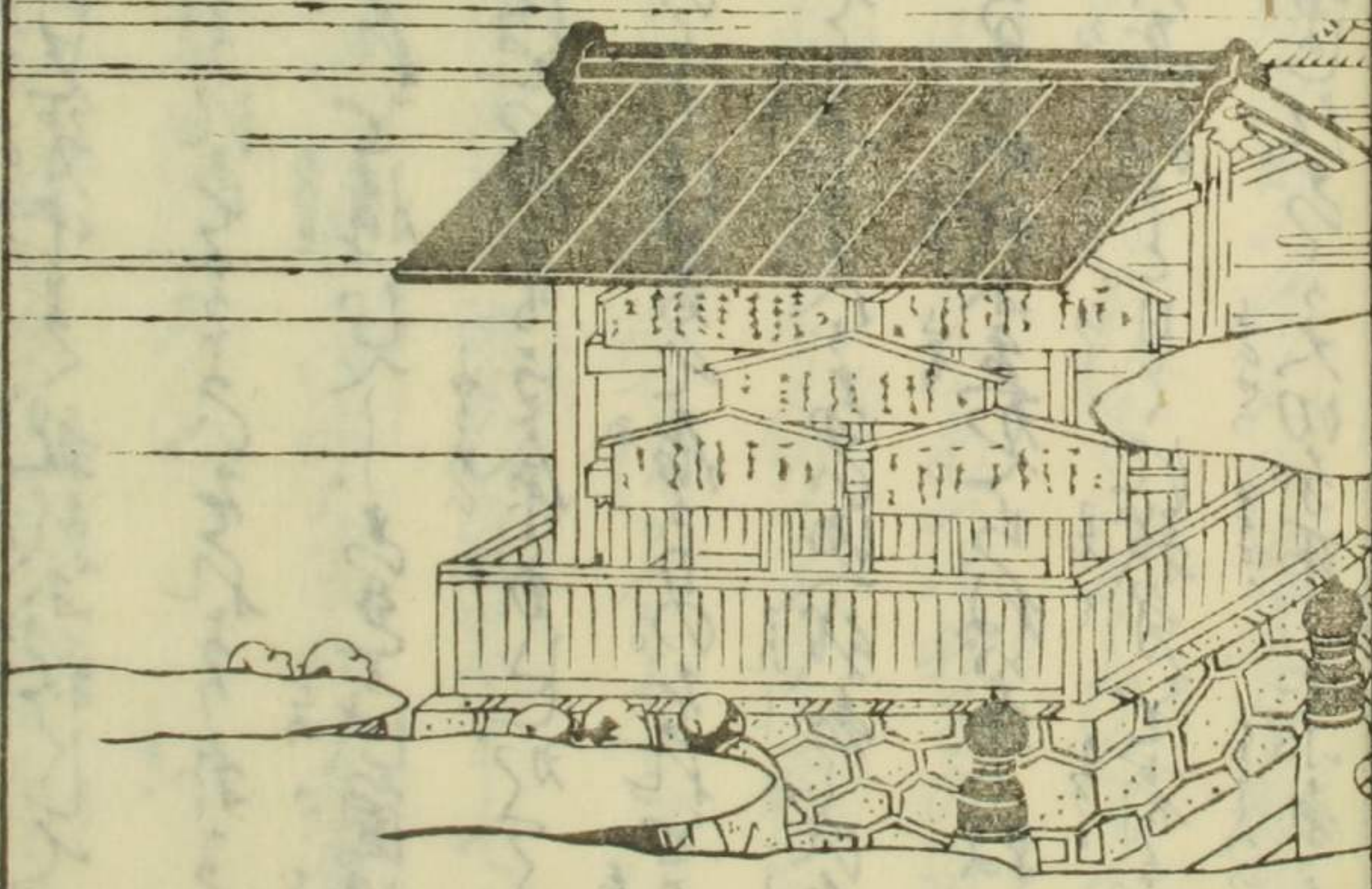
ひりめあふの目もせだ何一不ははあく安あふくじ飽とふ喰ひ

暖ふ衣ん逸存して不是はうりのふと云あんまり勿辨あはううら

あて存ること天舞ののむられねどせあえはばありうらぬ真かのお

は天下一統の所をれとあう親あう方い親孝行はる人換を大

吾輩もある  
 神代の堂の  
 ひろくく  
 子らもあや  
 あくく  
 とく  
 思ふ



道言

幸くと忠義と盡す。更將是實中よく親教ふ親くして只今日を  
 ありがたむ。くはやうにほるうよひ。それより外も何れも  
 ね。扱ふ人等もなまらぬ。これを憐むべし。まはるばる國標の眼目  
 中人といふ人のなまらぬ。無理といふ人も命のほどがたう。いひや  
 こそあひをうらも。まろくいふ人とはあてあつた。それを色人の  
 勝にまうせ。せ。親といふ人も。わう人。かゝる。我。か。た。た。小。背。く  
 こそまはる。の。あ。う。ま。え。大。う。や。我。ま。ま。あ。ら。ね。あ。ら。ぬ。無。理。い。い。と  
 ぬ。道。小。背。く。う。り。い。い。い。ね。わ。う。と。月。に。我。身。と。背。く。ま。は。る。と。是  
 已。禮。礼。と。重。人。も。作。ら。れ。ば。た。あ。う。大。切。を。あ。う。や。小。背。く。人。は。う。

ちも思ひやりやう。我身はあつて人の痛さと知れや。  
 思ひや。後より人のあひ子よ。我あひ子に。あひく。と。ん。と。  
 つらね。あ。あ。う。ね。唐。小。陶。測。明。と。う。人。あ。つ。て。我。子。の。許。す。と。ん。と。  
 是。は。と。ん。と。汝。を。新。水。の。芳。を。恥。く。ま。は。る。人。の。子。あ。り。親。の。心。か。く。我  
 汝。と。思。ふ。と。く。汝。を。あ。ひ。く。よ。う。よ。く。懐。ん。で。は。う。ふ。と。ん。と。い。ひ。送。ら。れ。と  
 こそあつた。あつた。大。名。標。の。水。徳。在。標。で。誰。か。と。冠。軍。と。あ。つ。て。ま。は。る。親。の  
 門。人。其。角。角。雲。標。と。同。く。時。代。の。心。方。が。心。徳。を。あ。つ。て。ま。は。る。親。の  
 雲。の。日。や。あ。ま。も。人。の。子。格。ひ。ろ。し。  
 と。か。さ。れ。ま。う。た。が。あ。の。陶。測。的。の。後。も。人。の。子。あ。り。能。過。は。じ。と。や。た。と

同じと唐目かまを痛たきあひかりの心こころの志こころざしその時分ときぶんに  
 漢字かんじの流ながれおに物もの流ながれ某あつたとの不ふ可か解げあつてあれが史し傳でんかたうまは流ながれ  
 ときえよく費あつたといふれ。或ある冬ふゆ雪ゆきの降ふり時とき 嗚な々なとのふ人ひとの方かたは禽かみ  
 わり之これ西にし邊へも仍なほ今いまと存ぞんんを流ながれくひのどろちを依よつて進ますか  
 するを肉にく義ぎが送おくられく若わかくその小こ僧そうの住すま乃なりあつて海うみりときをよ家いえ飛と  
 とし今いま存ぞんんを今いまと存ぞんん風ふう雅やと好このむ人ひと視みあつて口くちのうちと一首いっしゆ  
 訴うまれと。

我子わがこあり依よつてはまよ一いつ夜の雪ゆき

といふれ。まよふ惻あはれ隱こもりの心こころに依よつてもあはけきと人ひと我わがの私ひそめが物もの魔まと

きてあつね。そよそよの霽はら向むかひきよき日ひの昇あるにまゝとあはれと感かんをた  
 獨ひとりゆりまよとのふこととや女おんな中なかつ方かたはあれまゝにまよふと下げ雅や小こあ  
 と彼かをとも免めん角かく忍にんぶり要ようとやそれつつけえあつてさあいあはれあつ  
 我わがくもりつて人ひとりいへられまゝいとあはれまゝにばいをれとまよふねばあ  
 ねとの心こころ能よく授たまふまよせう。まよふ。  
 東照とうてう宮みや採と新しん幼ごう少しょうの附つけ強あつ別べつ今いま川かわ家かに流ながれかまよふた。まよふ  
 流ながれ十七じゅうしちの時とき三さん劫ごう是し時ときは流ながれ城じやう持ぢつれ物ものら。田でん植ぢ附つ分ぶんのこと百ひやく姓せいも  
 男女おんなとをとこ打うち交かう。田でん植ぢ視しかて早はや苗なへと植うて存ぞんんのこと心こころ流ながれかたう  
 存ぞんんその内うちふまよひのころまよふといふ男おとこがふくまよふとかたうて因いん



おつたお花をとりえを指さす。御用よとまうつと。御用よお侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの

お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの

水戸黄門光園御

東照宮様御代のおり。御著述様。これ東遷基業。このお花御  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの

弘治三丁巳のこと

神皇傳二巻。御著述様。これ東遷基業。このお花御  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの  
お花ののち。お花と水て集れとある。御用お侍もこれでおの

何れも不足あるまじく振の事業とて。自身辛苦を止むこと  
不便の事あり。今の内は後分後三業として取次ませよ。我も  
人も前に苦勞して後楽あるものと心持べし。我一人志を遂  
とあらば。汝等もかくいあまらざらば。悔いて捧げと仰らるる涙  
くまをぬへ。御腹中及び此は彼の人々まで。御心を感ずる。涙  
涙と憐れしとあり。

涙に此時分まじく。此報をたそふ。此前よりして。此合戦を遂  
済一生。涙子辛業。苦持されども。夜に此来。元下線のごく。礼を  
為。氏塗炭の苦。こに沈む形。と。此物ある。こと。せ。き。され。い。む。ら。り。

そ是ゆ。今。は。春。平。の。伏。せ。あり。我。が。振。分。の。ま。ま。で。安。楽。な。後。の  
お。来。る。へ。と。あ。つ。この。此。後。よ。や。ば。團。結。と。あ。ら。ぬ。と。真。加。が。あ。ら。せ。せ。あ。え  
力の。此。身。報。じ。あ。や。か。う。く。此。身。の。執。り。時。の。此。筋。と。あ。ら。ん。  
所。上。之。此。若。方。と。樹。ね。せ。う。し。や。う。そ。ま。し。ゆ。金。も。人。と。は。な。ら。ん。人  
等。に。あ。ら。ま。ま。と。あ。ら。せ。と。憐。れ。む。べ。し。憐。れ。む。と。あ。ら。ん。只。此。を。分。下。と。あ。ら。し  
か。ら。ふ。と。せ。ま。す。人。の。あ。ら。し。く。と。は。り。よ。え。あ。ら。ぬ。人。の。あ。ら。ん  
元。愛。え。と。ふ。あ。ら。く。い。ん。と。あ。ら。せ。り。ら。自。那。人。つ。つ。ひ。あ  
ら。ん。日。う。か。目。小。言。才。り。の。か。た。お。内。中。の。ま。の。と。あ。ら。し。く。あ。ら。し。て。あ。ら。ん  
て。あ。ら。ぬ。た。ら。し。く。あ。ら。せ。と。あ。ら。ん。大。と。あ。ら。ん。泣。ち。び。ひ。や。れ。ゆ。ん。自。人。あ。ら。ん



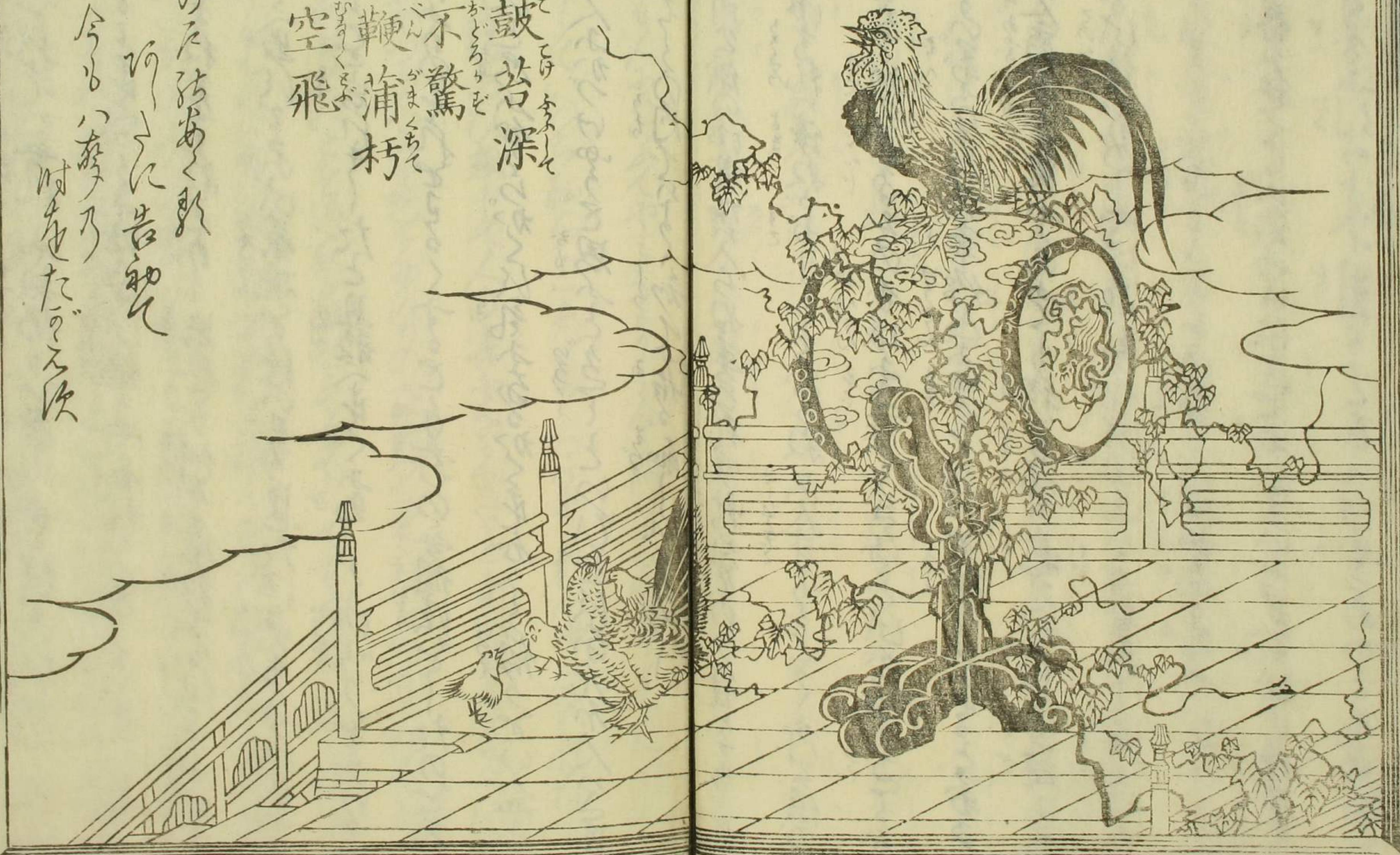






諫鼓苔深  
 鶏不驚  
 刑鞭蒲朽  
 螢空飛

天の戸跡あけぬ  
 何と云ふ告知  
 今もハ蘇メ乃  
 時をたがへん









領家つものさ。あはれいふ。心も振るぬのさ。切敷くを  
 大家にあらん。財宝を盗みぬ。さも手に持たせぬ。のさ。務  
 家の保捕とも。公家の館へ。礼せ入。つとれ。ちよ。上  
 付宝と。ゆりく。大を。盗儀。又。其。長。絶。逆。之。石。川。を。為。す。其  
 白。堂。ふ。手。中。の。盗。儀。と。引。つ。て。大。將。馬。ふ。ま。り。獲。と。り。せ。り。性  
 来。上。る。大。さ。る。あ。ら。ふ。ま。ま。り。中。人。の。寐。入。と。何。ひ。家。庭。を。切  
 て。運。入。る。や。う。あ。ら。ふ。と。ら。ほ。う。だ。か。あ。は。れ。ぬ。も。その。時。分。は。夜。間。よ  
 合。戦。た。た。は。せ。ゆ。ま。も。開。け。ぬ。放。を。れ。ち。を。割。断。し。る。ゆ。ま。が。あ。つ。ぬ  
 四。その。振。お。も。び。あ。つ。この。ゆ。ま。その。時。分。に。ま。は。れ。合。戦。た。た。は。せ。ぬ。

振。か。と。ぞ。あ。ら。ふ。さ。を。辨。し。ぬ。世。の中。で。あ。ら。ふ。そ。を。さ。う。か。の  
 今。の。世。の。世。政。だ。あ。つ。う。う。の。と。ぞ。い。あ。ら。ふ。は。あ。ま。の。さ。う。の  
 ち。ま。り。強。弱。敵。目。も。く。飯。食。を。ぬ。ま。の。わ。ら。ひ。も。あ。つ。さ。う  
 が。儀。や。の。日。毎。う。ひ。あ。ん。だ。後。つ。と。つ。て。く。あ。ら。ふ。と。い。ふ。ゆ。め。も。あ  
 い。又。二。家。を。ま。あ。の。と。ぞ。首。く。さ。る。の。が。あ。ら。す。も。あ。替。屋。で。小。判。小。粒  
 と。ぞ。さ。ら。入。る。あ。ら。ふ。と。ぞ。く。花。か。つ。え。は。く。も。持。え。逃。た。ら。ふ。と。ぞ。も  
 あ。の。不。皆。海。の。世。政。だ。の。ゆ。め。あ。ら。ふ。ゆ。め。さ。す。す。の。の。の。の  
 捕。く。比。割。取。あ。ら。ふ。老。者。の。の。の。一。は。は。復。原。と。あ。ら。ふ。後。こ。と。は  
 貴。君。心。し。い。世。代。の。世。政。と。ぞ。れ。く。が。あ。ら。ふ。さ。も。の。も。安。ら。ふ。は。な。ら。

ハニ物治政の正しき法をこれゆせあてははるれの後とある  
カ。此其報じこのありのいなりふさ法とあることありバ神仏智人  
も此よりこびある。天子將軍様此後人申梅此後道と思  
は。面々此内和合子孫長くこひひあり。よき道は生く学問  
を拘たんと後。此此文をよき事小書ゆりまするの。家問の  
持家。さうあう。此物もあくていありぬ。後まわぬあうぬ  
のあれも。此ひう大なり。やばはるれのをりひひつとむ  
人が。學者とのそののそれゆえ。あぞ。此をぬやうに。此。また  
いつやく。同ト。ま計り。此後。一。ま。此。今日。ま。切。

寛政又癸巳の歳丑月廿六日下谷相生町参事合會り  
於て講に

倉重氏施板

早稲田大学図書館

011488467400